

今年度2回目の研修会は、「震災から学ぶ保健医療従事者のための災害対策」と題し4月に発生した熊本地震への災害支援の報告をもとにパネルディスカッションを行いました。座長は滋賀県健康医療福祉部 次長 角野 文彦氏にお願いしました。



「地震災害と身近な防災対策」滋賀県防災危機管理局の石黒 達也 氏より基調講演として、地震のメカニズム、実際の地震や津波災害の様子（防犯カメラの映像）、県内で考えられる災害の概要、対策としてのポータルサイト等の紹介をお話しいただきました。



また、支援の実際として、今回の地震で初めて発動した「JRAT 支援活動について」を滋賀県立成人病センター リハビリテーション科 科長 川上 寿一 氏より、地震発生後少し時間が経ってからのリハビリに関する支援（生活動線への支援も含め）を紹介いただきました。



次に「訓練は本番のように、発災時は臨機応変に」と題し済生会滋賀県病院 画像診断科・臨床研修センター 枚田 敏幸 氏より、DMATの支援体制として、発災後数時間で当番病院（平時から当番が決まっていることをご紹介いただきました！）に連絡が入っていたこと、「想定外」をできるだけなくするために訓練が必要であることをお話しいただきました。

と、「想定外」をできるだけなくするために訓練が必要であることをお話しいただきました。



最後に、「熊本地震への支援から」として、大津市保健所保健総務課 副参事 藤本 亜由美 氏より現場がまだ混乱にある中で、現地スタッフの対応もサポートが必要であった状況や、万が一県内が被災した場合受援側として備えておくことについても触れてお話しいただきました。



近年、支援に行かれた方の事後フォローについても注目されており、各講師から「帰りに支援に参加した者同士で1泊した」「新幹線の中で一息ついた」「なかなか時間が取れなかった」と体験も披露くださいました。

それぞれの支援の実際に触れつつ、今後への課題についても紹介いただきましたが、全体でディスカッションするには少し時間が足りず…もう少しお話を聞きたかったです

お忙しい中、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました